

●メリーランド州との交流後ペンタゴンへ 八九年十月
ーメリーランド大学で感動的体験をしたー

神奈川県の姉妹州であるメリーランド州との定期交流のため、アナポリスの州政府を訪問、シェーファー知事を表敬した後、経済省や近隣の市や町の代表と交流。チェサピーク湾のクルージングが忘れ難い。高橋国際交流課長らが同行。

メリーランド大学にも案内され、図書館にあるプランゲ・コレクションを見学したが、ここで感動的な出会いがあった。このコレクションは占領下日本のあらゆる出版物を検閲していたGHQ検閲部の責任者だったプランゲ大佐が、検閲のため提出された出版物を占領終了後、大佐の母校である同大書館に寄贈したもので、ボロボロになりつつある資料の保存について協力を求められていた。

私は最初の就職先である中国研究所時代、「アジア経済旬報」、「中国研究月報」などの定期行物を東京中央郵便局にあったGHQ検閲部に提出する仕事もしたことがあるので、早速検索してもらったところ「中国研究月報」のコピーを五冊分用意してくれた。このガリ版刷りの雑誌を手にしたとき、往時を想い感無量だった。帰途、ワシントンに回り、国務省、国防省を訪問、神奈川の基地問題について要請活動を行った。（このコピーは後に中国研究所に寄贈した）

州庁舎にシェーファー知事を表敬す 端正なる接見室わが県にも欲し

チェサピーク湾夕陽を浴びてきらめけり ガバナーズボートのクルージング佳し

アナポリス女性海兵逞しく かけ声高くボート漕ぎゆく

チェサピークは海幸の宝庫なりロブスターなど たらふく食らい杯を重ねる

GHQにわたれの運び「中国研究月報」 コピー受け取り感慨深し

（1950ー51年頃検閲部に度々出頭し、顔の見えぬ窓口で刊行物を手渡した）

検閲部「発禁」のスタンプ押されたる 毛深き腕を今も忘れず

国務省ジャパンスクールに囲まれて 日米関係のセミナーのごと

基地問題で初めて訪ねし。ペンタゴン パウエル・ジュニアが玄関に待つ

(パウエル国防長官の子息、下士官だった)

ペンタゴン迷路のような通路をば すいすいに行く。パウエル・ジュニア

次官補は眼光鋭く吾を見つめ 八割拒否し二割受容す

(厚木基地の夜間訓練の騒音被害、横須賀基地の原子力艦船の安全性について抗議と要請)